

## 小児鍼(はり)について

### ・小児鍼とは

小児鍼とは「乳幼児・小児に行う刺さらない鍼を使用した鍼治療」です。

刺さらない鍼とは、いくつかの種類がありますが当院で使用しているのは「鍔鍼（ていしん）」とよばれる、先端の丸まった棒状の鍼です。

では、この刺さらない鍼で何をするのかというと、接触と摩擦刺激です。

接触とはツボに鍔鍼をあてる事で、摩擦とは鍔鍼で皮膚をこすることです。

なでたり、こすったり、チョンとあてるだけなので痛みは全くなく、心地よい刺激です。

### ・何に効くか

小児鍼が適応するのは「疳虫（かんむし）治療」と「疾患別治療」に分けられます。

「疳虫（かんむし）治療」とは疳虫といわれる小児の神経症様の症状に対して行います。

疳虫の代表的な症状は、夜泣き・イヤイヤ・イライラです。

疳虫の治療をしていくと、精神状態が落ち着くとともに、風邪をひきにくくなったり、よくご飯を食べるようになっていたり、健やかな成長の手助けになり身体が丈夫になります。

「疾患別治療」は、

喘息・鼻炎などの呼吸器疾患

便秘・下痢・食欲不振などの消化器疾患

仮性近視などの眼科疾患

アトピー性皮膚炎・花粉症・アレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患

夜尿・頻尿などの泌尿器疾患

風邪・インフルエンザ・嘔吐・下痢などの感染症

ねんざ・関節の痛みなどの運動器疾患

その他、頭痛・皮膚疾患などに適応します。

### ・なぜ効くのか

皮膚からの様々な刺激は神経を介して、脳や内臓に影響を及ぼします。

子どもは身体が未発達ですが、皮膚感覚は非常に敏感です。

そのため、なでたり、こすったり、チョンとあてるだけといったごく微量な刺激でも子どもの脳や内臓に影響を及ぼすことが出来るのです。

外界からの刺激はストレスとなることも多く、身体の未発達な子どもはそのストレスをうまく処理できないことも多いのです。

ストレスが過剰になると、身体は緊張し精神状態も不安定になります。

身体の緊張状態が続くということはつねに戦闘モードにあるということなので、身体を休息させたり、発達させたりという健やかな成長の妨げになります。

小児鍼による皮膚刺激は、身体をリラックスさせ、精神状態を安定させ、脳や内臓の発達や疲労回復を促し、防御作用や免疫作用を高めることにつながります。

#### ・東洋医学的に考える子どものからだ

全ての病は陰陽（=気）の不調和によって起こると考えます。

これは大人も子どもも同じで、陰陽の不調和を正すことが出来れば病気は治癒し、予防もできるのです。

子どもは大人と比べて、器（身体）が小さく気も少ないので、ちょっとしたことで気の過不足を生じ陰陽の不調和を引き起こしますが、回復も早いのが特徴です。

人間の身体の陰陽は常に動いてバランスを取っているシーソーのような状態が良く、傾きすぎたシーソーや動かないシーソーではだめなのです。

たとえ生まれ持った体質が虚弱であっても、陰陽のバランスがとれていれば健やかに成長できます。

この陰陽のバランスを整えることが小児鍼の目的です。

例えばもともと胃腸虚弱な体質であっても、小児鍼をによってうまく陰陽のバランスが取れてくると、大食いチャンピオンにはなれませんが胃腸の不調に悩まされることがなくなり元気になります。

このような子どもの場合は身体も大きくなりにくいことがありますが、無理にたくさん食べさせようとしないことも重要です。

子どもの体質を知り、その子に合った生活を送ることが理想です。

当院では東洋医学的にみた子どもの体質とそれに合った養生法もお伝えいたします。